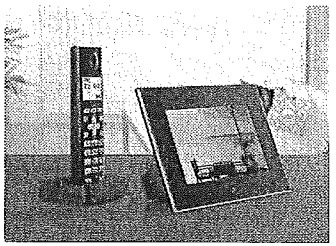
欧米で
LED
パナ

スを通じて供給する見通し。両社に対し生産技術のノウハウの提供を始めた。LED照明市場の立ち上がりをにらみ、現地生産、販売に踏み切る。

パナソニックが現地生産を計画する理由は、国や地域によって求められる仕様が異なるため。ま



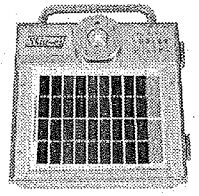
シャープは19日、フォトフレームと電話機を一体化したタッチパネル液晶画面付き電話機「インテリアホン＝写真」を9月25日に発売すると発表した。メモリーカードに保存した写真データを取り込み、待機時にスライド表示する機能を搭載。

リビングなどにインテリアとできる。オープ月産1万台を目

コードレス電体に7型カラーを搭載し、シン観にした。通話器を充電器から面に表示される

日射・温度で発電量試算
太陽光発電施工業者向け データロガー投入
新栄電子

【横浜】新栄電子計測器（神奈川県藤沢市、成勢明社長、0466・88・3030）は、日射量と温度から太陽電池の発電量を割り出すデータロガー「ITL－1000＝写真」を10月に発売する。大容量メモリーの搭載で長期間にわたるデータ収集が可能。日射量から設置費用の回収期間や売電量も試算できる。価格は26万円。初年度1000台の販売を目指す。



太陽光発電システムの販売業者や施工業者向け。設置を検討する顧客に対して、設置場所の正確な発電量を提示する販促ツールとして売り込む。

収集したデータを専用のシミュレーションソフトで解析し、日射量と温度から発電量を試算する。本体に搭載した太陽電池を電源とするため、どこにでも設置できる。

装置内に携帯電話を収納し、離れた場所からリアルタイムで日射量と温度を計測できるシステムも併せて開発した。

日射計や温度計からのアナログ信号を音声データに変換する仕組みで、内蔵電話にダイヤルすれば音声でデータを確認できる。

太陽発電プラント受注
東芝、中部電から数十億円

東芝は19日、中部電力と大規模太陽光発電プラントの建設契約を結んだ。事業者用の太陽光発電プラントの受注は初めて。基本設計から機器納入、プラント建設までの一括契約で受注額は数十億円とみられる。東芝は系統連携や制御システム、パワーコンディショナーなどを自社で供給、太陽電池モジュールはシャープから調達する。

発電プラントは中部電の武豊火力発電所（愛知県武豊町）敷地内に設置、発電出力は7・5メガワットで2011年秋に稼働予定。パワーコンは直交変換効率97・5％の世界最高クラス性能の製品を開発した。東芝は太陽光発電システムを成長事業と位置づけ今年1月に専門組織を新設。グローバルで拡販し15年度に売上高2000億円を目指す。

高圧電力ケーブル製造
ロシア社を技術支

古河電気工業は19日、ロシアのウンコムテック（モスクワ市）と、高圧電力ケーブル製造で技術援助契約を締結したと発表した。古河電工とフジクラの電力部門の統合会社であるビスキャス（東京都品川区）な部品製造技術、技術をもとに、ーズに合った高ーブルの製品化る。今後、ロシおける戦略的なも検討していく

ウンコムテッ27カ所の販売拠し、送電ロスを る高圧電力ケー販する。すでに会社であるキル（キルス市）点で試験用の1の高圧電力ケー造を開始して

開発競争が激しい緑色半導体レーザーで住友電気工業が実用化のめどをつけた。材料に窒化ガリウム（GaN）を使い、室温で波長531ナノメートル（ナノは10億分の1）のパルス発振に成功、連続発振でも同520ナノメートルを達成した。GaNの結晶面を工夫した末の成果だ。直径2インチ基板で製品化を目指し、2009年度のサンプル出荷を計画する。今後は、プロジェクターなどにとどまらない新たな用途開拓が、事業化に向けた課題となる。

上から右下へと斜めに切り出した「20－21面」を使用。この「相当ひねくれた面」（西沢秀明材料技術研究開発本部半導体技術研究所長）で

半導体レーザーの開拓。発光ダイオード（LED）を光源にしたひらサイズのプロジェクターが販売されてこの光源の置き換え